



「余白と密度を設計すること」

札幌の中心部に位置するお寿司屋である。テナントの設計において、つついフルに空間の隅々まで、なにか設計しなくては、というような観点に陥ることが多いと思うが、今回、路地のような余白空間をうまく作ることで、重要な空間（カウンター席・個室）の密度を究極に高めたいと考えた。まず道路からビルへの入口を入るとまさに路地と呼べる余白空間が現れ、建物の中に入った筈なのにもう一度、屋外へ投げ出された感覚になる。この空間は風除室の役割もあり、空気環境も安定させる。路地から身体スケールの引戸を開けると、今度は路地の奥先にあるような小さな広場のような空間に出る。この空間はギャラリースペースにもなっている。小さな広場に面してお店があるかのようにカウンター席と個室への引戸が設えられている。その戸を開けると親密な空間へとたどり着くのである。



「建築概要」

題名 お寿司屋
 住所 札幌市中央区南2条西7丁目8-2
 用途 お寿司屋
 床面積 75.76㎡
 構造 鉄筋コンクリート造(既存建物)
 竣工 2016.7



